えくてびあん

立川と語ろう　立川に生きよう

October 2015
Écoutez Bien Vol.34 No.371

10

ジャーナリストになってみた！

表紙の人／「立川で三代」　SANFUJI 三代（幸町）

立川駅北口周辺［1］

えくてびあんは1984年創刊です。
バックナンバーには立川の30年が詰まっています。
このシリーズでは昭和の終わりから平成へ、立川の変遷をお届けします。

1995(平成7)年　「新立川高島屋 オープン」と記されている
撮影：松田忠明

1984(昭和59)年。映画「風の谷のナウシカ」が公開された年、創刊3号の『えくてびあん10月号』には「立川セントラル劇場にて『アンナ・パブロワ』封切」の一文がある。1985(昭和60)年8月号は、昭和記念公園の「レインボープール」オープニングセレモニーの特集、楽しそうな様子がカラー写真で紹介されている。6月28日のオープン当日はそぼふる雨の涼しい日だったようだ。この頃、すでに立川駅の新駅舎と南北自由通路はできていて、立川ターミナルビル「WILL」も開業、立川は刻々とその姿を変えている最中だった。

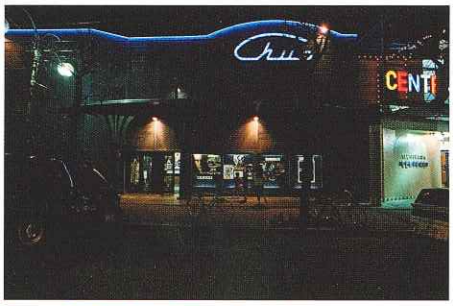
1968(昭和43)年12月、米軍は滑走路延長をとりやめ、翌1969(昭和44)年4月、政府は立川飛行場拡張中止を決定した。同年12月、米軍は立川基地の飛行活動を停止。基地跡地利用が模索される中、1977(昭和52)年11月30日、立川基地は日本政府に全面返還。1978(昭和53)年10月、大蔵省、国土省が「立川飛行場返還国有地の処理の大綱」を発表。同年12月27日、市は「大綱案」について要望事項を付して了承する旨を国へ回答。翌1979(昭和54)年11月19日、国有財産中央審議会が「立川飛行場返還国有地の処理について」決定し、以後、立川はこの方向性に沿って歩み出す。

1983(昭和58)年10月26日、昭和天皇ご臨席のもと国営昭和記念公園 開園式が挙行される。立川基地跡地関連地区第一種市街地開発事業で完成した街は「ファーレ立川」と名付けられた。「創造の場」となり、未来に向けて発展していくことを願い、イタリア語「FARE」に立川の「T」をつけて「FARET」と表記。また立川が多摩の「心(しん)」として発展していくため、モノレール計画の促進のために、北口周辺の整備が始まった。懐かしい街並みは徐々に消え、北口は、後にアニメ映画の舞台にもなる未来都市へと変遷していく。

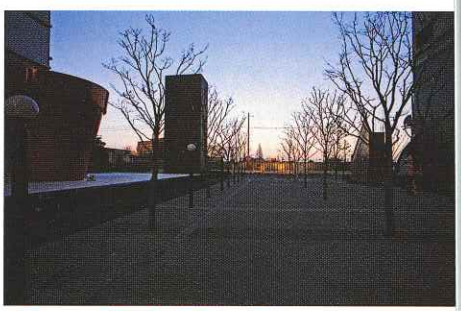
2015(平成27)年　撮影：えくてびあん

1994(平成6)年　撮影：えくてびあん

2015(平成27)年　撮影：えくてびあん



3つの映画館が道路に面して並んでいた
撮影：松田忠明



左側は1995(平成7)年開業の高島屋、右側は1994(平成6)年開業のパレスホテル立川　西側にはまだ何も建っていない　撮影：松田忠明

映画『JFK』が日本で公開されたのは1992(平成4)年
撮影：松田忠明

現在のピタゴラス通り辺り　撮影：松田忠明

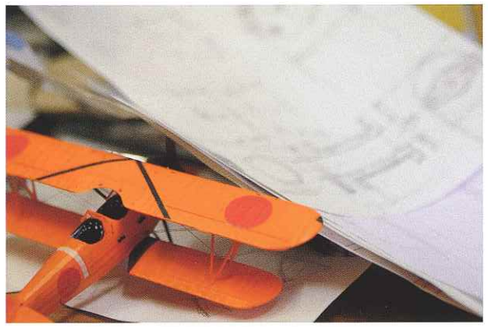
参考資料：「写真でみる立川の街づくり ―あゆみと今― 立川市」

［インタビュー］

きらり！この顔

Tachikawa Inside Outside
あの人、この人、立川人 22

立川の空を飛ぶ二枚羽



空の都復活の立役者

立飛HDが2018年に九五式一型練習機
通称「赤トンボ」を再現する。造るのはこの人。
「空の都」の復活は、立川ものづくりの復活だ。

——有限会社オリンポスさんは日本唯一の飛行機メーカーだそうですが、他には本当にないんですか？

四戸　小型の民間機はないですねえ。日本は飛行機の開発に関しては超後進国ですよ。

——世界では空飛ぶ自動車ももう夢ではない時代だとか。

四戸　ええ。もう実現化しています。

——アニメの世界だけだと思っていましたが、すでにデザインのレベルに来ているという感じですか？

四戸　いえ、デザインは別物じゃないんです。デザインを後からつける飾りもののように皆さん考えますが、そうじゃない。デザインは意味があるからそういうデザインになっているんです。

——では、このデザインは必要な機能があってこうなっている？

四戸　そうそう。だからトンボもカブトムシもあとから盛ってあんな形になっているわけではないんです。トンボきれいだな、カブトムシきれいだな、チョウチョきれいだなって思う。それは研ぎ澄まされた機能美だからです。

——なるほど！この秋、四戸さんのところで有人ソーラープレーンを飛ばすとうかがいました。4月に立飛さんのオープンファクトリーで見せていただきました。あれを飛ばすのですか？

四戸　そうです。飛ばすのは立川ではなく、福島スカイパークです。何回かに段階を分けて飛ばします。バッテリーを使って改造が上手くいっているかどうかの確認をするのが8月中。その後ソーラーパネルを積んで飛びます。

——ソーラーパネルを積んだら重くなるのではないかと素人は思いますが。

四戸　先日スイスのソーラーインパルスが飛んできて名古屋に降りましたが、ジャンボジェット機の一番大きいものよりもっと大きい。

——見ました、見ました。細いけれど羽がすごく長かった。

四戸　ジャンボジェット機は500tあって、エンジン1個の重さがだいたい5tから6t。こちらのインパルスは全体の重さが2.3tです。格納庫から人間が2人で押して出してましたよね（笑）。軽いんです。

——細くて長くて、姿がエレガントでしたよねえ。

四戸　飛行機の羽って細長いほど効率がいいんです。同じ面積だったら、幅を広げるよりも細長くした方がいい。海鳥って羽が長いじゃないですか。山にいる猛禽類は羽が短い。連中は飛ぶ距離は短いけれど加速がいい。海鳥は、できるだけ少ないエネルギーでゆっくりですけれど長い距離を飛ぼうとする、それと同じなんです。このエレガントな姿で富士山の2倍の高さを飛ぶんです。

——天気が悪くても大丈夫なんですか？

四戸　高い所を飛んでいる分には大丈夫です。高い所は一方向に風が流れている。風が押してくれるので、追い風に乗ればビューッと。だから富士山より高いところに吹いている偏西風が、自分たちの行きたい方向に吹いているかどうかということを気にします。

——風を読むわけですね。立川の話題になりますが、四戸さんは通称「赤トンボ」を再現するそうですね。そもそも立飛さんとの関わりは？

四戸　昨年、羽村市で羽村、福生、青梅合同の夏休み子ども体験イベントがあって、そこで飛行機を実際に飛ばして見せたんです。バンジージャンプを横にしたような感じで、ゴムパチンコの要領で子供たちがゴムを引っ張ると、人が乗った飛行機が飛んで行くというのをやったんです。かなり自制してやっても200mや300mは飛びます。

——紙飛行機の実機版みたいなの？

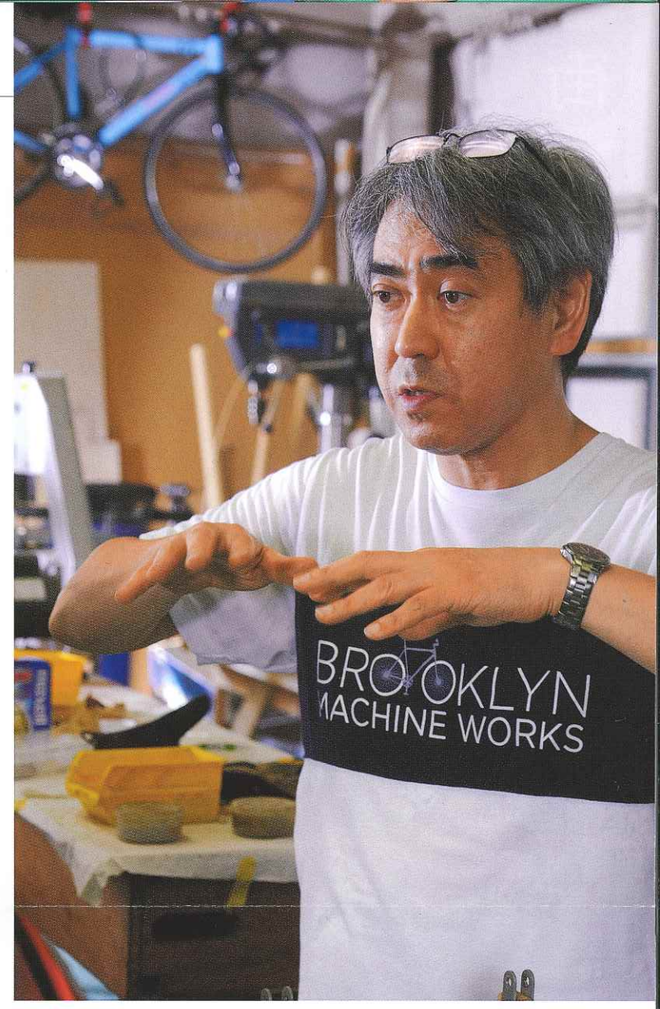
四戸　そうです、そうです。ヨーロッパでは今も普通にやっていますが、戦前には日本でも国が旧制中学校にもれなく飛行機を1機ずつ配ったことがあるんです。軍事教練とは無縁で、体育の授業でグライダーに乗ったんですね。昭和3、4年生まれくらいの方々は経験していると思います。

——じゃ、立川高校にも配られた？

四戸　もちろん。間違いなく。

四戸 哲 さん

青森県出身。幼いころから空への憧れが強く、日本大学理工学部航空宇宙工学科卒業後、1985年、有限会社オリンポスを設立。以来、重工系以外では日本唯一の飛行機開発メーカーとして数々の小型飛行機を生み出している。青梅市にある本社兼工房には、多くの技術者や学生が集い夢の実現に熱中している。



——知らなかった。聞いたこともなかったです。

四戸　学校の倉庫とかに残っていたりすることがあるんです。私の出身校にもありました。当時、今のヤマハさんとかスポーツのミズノさんとかがこの飛行機を造っていたんですよ。わざと性能を落として、長く飛べないようにしてあるんです。体育の授業ですからその方が練習が楽なんですね。いい時代でした。

——今じゃあり得ないですね。

四戸　ええ。それを久しぶりにその会場でやってみせたんです。それを立飛の石戸会長、村山社長が面白いことをやっているねということで。

——ご縁がついて、赤トンボ再現へと。

四戸　ええ。最初は形だけ再現というお話だったのですが、いや、形を作るなら飛ばせますよと。論より証拠で、アメリカのウィスコンシン州にオシュコシュ（OSHKOSH）という場所があるんです。そこで年に1度自分たちで作った飛行機で飛行ショーをやるのですが、ちょうどその時期に重なったので、立飛の石戸会長はじめ皆さまに見に行ってもらったんです。

——へええ。立飛さん、アメリカまで行かれたんですか。

四戸　そこで充分できるという確信を持っていただいて、それからスタートしました。昨年の7月でしたから、ちょうど1年経ちましたね。

——四戸さんにとってもこの赤トンボ再現のお話は面白い話でした？

四戸　もちろんです。面白いです。なるたけ若い子たちに本物を見せたいんです。

——それは立飛さんの思いでもあるようですね。

四戸　今はなんでも全部「看板」だけなんですよ。例えば数学でも社会でも歴史でも。教えているのは全部「看板」だけでしょ？実際に飛行機に乗る時でも、空港のボーディングブリッジから乗りますでしょ？そうすると、廊下を歩いてきていきなり大きな宴会場みたいなところに座らされて飛ぶわけじゃないですか。飛行機に乗る時、地面から行ってみるとすごく印象が強いんですよ。子供にとってみると、下から見上げる飛行機ってすごく大きい。でも今、そうやって飛行機を見る機会がほとんどない。間近かに飛行機があって、あるいは自分がそこへよじ登って飛び立つという経験があれば、もう言葉はいらないと思います。

——そうですね。飛行機を検索して、重さや長さを数字で知るより、見て触って乗って感じてが大事ですよね。

四戸　ゴロゴロしていたおしりの感触がふっと何も感じなくなる、「浮いた」ってわかる瞬間。脳の芯にズーンと来るんです。「これはおもしろい！」って。

——ああ、わかります。体験ってものすごく大事ですよね。公園を作りますっていう時、そのまま草っぱらにしておけばいいのに、整地して遊具を置いてしまうのとちょっと似ていますね。

四戸　「責任」という言葉がよく使われるようになってからですよね。何かが起きると誰かが責任をとらなければならない。誰かを悪者にしないと責任をとったことにならないという社会の単純なルールがいけないと思いますね。その結果、全て抑制することにつながっていきます。

——意欲につなげるためにも、若い子たちにものづくりの凄さを見せてあげたいですよね。

四戸　自動車でも何でもそうなんですけれど、飛行機も1機できちゃうと、2機目、3機目は簡単なんです。1機目を作る時は計算まみれ。設計書をものすごい数、書くんです。設計図というのは実は計算した結果を描くんです。手でやろうが、コンピューターを使おうが同じなんですけれど、ひとつめが大変なんです。2機目からは量産に入りますから。ですから、少々壊れたっていいんです。穴開いたっていいんです。穴が開いたら、子どもたちと一緒にツギをあてればいい。そんな話を石戸さん、村山さんにはしました。

——立飛さんも地域貢献に一生懸命で、立川の「今」だけではなくて「未来」を考えているとおっしゃっていました。

四戸　ええ。僕のところに集まる学生や技術者たちは、多い時にはこの工房に20人くらい集まっちゃうんですが、みんな就職活動とかあまり気にしていない。学生といいますが、いわゆる学生アルバイトではない。研究者であり技術者であり、大工でもなんでもやるみんな「創造」のプロです。買ってきたものをマニュアル通りに使うというところから、新しいものを産み出したいと思う子どもたちが未来を拓くんじゃないでしょうか。

街を歩けば
出会いの輪を広げて

ジャーナリストになってみた！

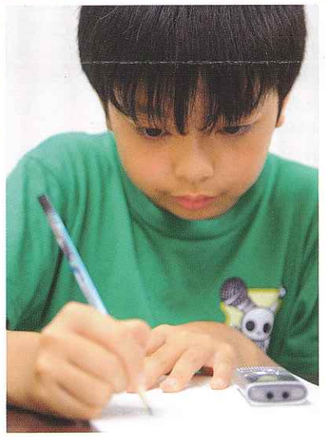
地元で職業体験「キッズドリームチャレンジ」

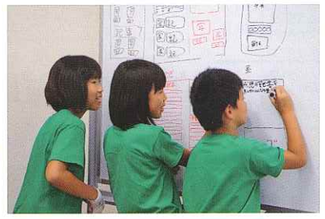
立川青年会議所が主催する夏休みだからこその企画。
子どもたちはそれぞれに、職業を通して自分の可能性を引き出していく。
さて、ジャーナリスト体験をした子どもたち、えくてびあんでどんな成長をしたのでしょう。

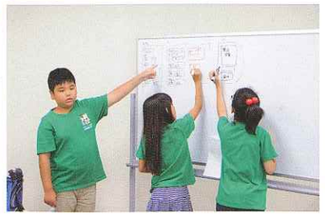
「キッズドリームチャレンジ 2015 Road to 2020 Step2」と題された今回は、東京オリンピックを意識して、子どもたちの手で創るフットサル大会を、8月7日(金)に泉体育館で開催しました。地元事業所がキッズの受け入れに協力し、11業種の職業体験をしながらイベントを創っていく――もちろん陰には青年会議所メンバーの大きな土台があるのですが、今年も大成功に終わりました。「アナウンサー」はエフエムラジオ立川、「ディレクター」はシャフトエンタープライズ トウキョウ、「広告プランナー」はサンケイメディオ、「音響クリエイター」はゲートウェイスタジオ、「照明オペレーター」は伊藤舞台照明、「看板デザイナー」はクリーンアート、「コンシェルジュ」は立川グランドホテル、「アスレチックトレーナー」はGuardians、「審判」はZION FOOTBALL CLUB、「カメラマン」はアライ写真館、そして「ジャーナリスト」はえくてびあん。

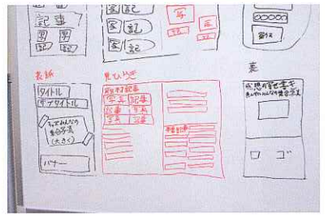
ジャーナリストって何だろう？ ジャーナリズムって何だろう？ そこから始まった「ジャーナリスト職業体験」。目標は、立川青年会議所の広報誌を作ること。ジャーナリスト以外の10業種に取材し、記事にまとめる。フットサル大会に出場するチームや協力団体に取材する。名刺の出し方、取材の仕方、記事と感想文の違い、良い記事にするために必要な要素、決められた文字数にまとめる大変さ、人を引き付ける見出し、わかりやすいレイアウト……。ICレコーダーを繰り返し聞いて、書いて、書き直して、また書いて。いつのまにか全員、原稿用紙を1冊全部使ってしまいました。

さて結果は？ みんな、びっくりするような成長ぶり！ ものすごくかっこいい書き出しがあったり、漠然と取材するのではなく対象をギュッと絞って深めたり、文字数あわせのテクニックも身に付けて。きっと他の業種の職業体験でも、みんな同じように成長ぶりを発揮してくれたことと思います。キッズドリームチャレンジは来年も開催するそうです。小学4年生～6年生のみなさん、来年は挑戦してみたらいかがでしょう。日常と違う経験は楽しいですよ。









えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。
今月は 一番町・上砂町・砂川町・柏町・幸町
若葉町・栄町・高松町 のお店です。

一番町
- CHINESE DINER 陶桃 …… 531-3100

上砂町
- B3+ギャラリーウェルメイド 538-7250
- fresh shop スーパーはしもと 536-2331

砂川町
- みのーれ立川 …… 538-7227
- JA 経済センター 立川店 …… 536-1824
- JA 東京みどり 立川支店 …… 536-1821
- 陶工房 己流庵 …… 537-6102
- たましん 砂川支店 …… 535-4411
- 珈琲豆焙煎工房 まめ吉 …… 535-1070
- BREAD & Sweets マニシェール 537-2202

柏町
- café de La Boum …… 534-6541
- 山梨中央銀行 立川支店 …… 536-0871
- 株式会社 セレモア …… 534-1111
- 超こってりら一めん パワー軒 535-1665
- ベーカリー リオンドール …… 535-4882
- (有) まつい測量 …… 534-4411
- ビーコック 玉川上水店 …… 538-3861
- 菅家医院 …… 536-4602
- うなぎ専門店 うなちゃん …… 536-6240

幸町
- 立川農産物直売所 …… 536-2439
- いなげや 立川幸店 …… 537-1820
- たましん 幸町支店 …… 535-5311
- 中国料理 SANFUJI …… 536-3813
- 西武信用金庫 幸町支店 …… 537-3101
- お米屋さん 大黒屋 …… 536-0851
- (株) 松浦商事 …… 536-6001
- 江戸前・富山の魚と酒 緑寿司 536-4800
- 至誠キートスホーム …… 538-2323
- とんかつ・割烹 かつ亭 …… 535-4611
- ドイツ製法ハム・ソーセージ ゼーホフ工房 535-5009
- 和洋菓子 たちばな …… 537-0347
- BSタイヤショップ 佐藤商会 537-0912
- 在宅療養支援診療所 立川在宅クリニック 534-6964
- 古楽の小屋 ロバハウス …… 536-7266

若葉町
- レストラン サラ …… 534-0602
- 浅見内科医院 …… 537-0918
- スーパー ヤオコー …… 538-1711
- ひとひとて …… 507-7352
- まんまる助産院 ひまわりハウス 534-9877
- ありた整骨院 …… 534-1622
- カフェ タイニーガーデン …… 507-1346
- カフェ・レストラン てくたく 536-5788

栄町
- たましん 栄町支店 …… 536-9711
- いなげや 立川栄町店 …… 523-7201
- ニュースサービス日経 立川中央 522-4507
- チーズ王国 本社 …… 513-4101
- ふくくるだいにんぐ …… 521-0482
- 高橋酒店 …… 522-4479
- 彩食中華 須崎 …… 507-0981
- 寝具の石川 …… 524-1333
- 手作りパン工房 Bonheur ～ボヌール～ 536-3207
- FUKUSHIMAYA 立川店 534-1700
- 相模屋酒店 …… 536-2476
- メンズカット ヤザワ …… 536-8738

高松町
- 丸助青果店 …… 522-3542
- 米穀・食料品 横町屋 …… 522-2609
- 中華料理店 太幸苑 …… 527-0906
- 不動産・賃貸・店舗情報 まどか 527-7377
- セイロン風カリー シギリア 507-2418
- ふじ整体院 …… 540-9155

jorakugajo
真如苑提供番組〈常楽我浄〉
スカパー！：529ch
スカパー！で放送の常楽我浄は
スマートフォンアプリ「ivy」(無料) で視聴できます。
J:COM 多摩：111ch
放送時間については番組表をご確認ください。
www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

第15回 応現院文化講演会

地域の皆様の交流の場として始まった応現院文化講演会も15回目を迎えました。今回は彫刻家・籔内佐斗司(やぶうちさとし)氏を講演者に迎えます。

『せんとくん』はよく知っているけれど…という皆様、籔内氏の作品は多摩地域にもたくさんあるのです。八王子市の松門寺に『瓦磨き童子』、極楽寺には『観音菩薩立像』が、府中市寿町スポットパークにはかわいらしい童が何体も遊んでいます。そして立川市にも、講演会会場となる応現院境内に『おおぞら地蔵』が建立されました。一見ユーモラスな仏像を多く刻んでこられた籔内氏。講演会で何を語ってくださるのか、とても楽しみです。

第15回 応現院文化講演会
『籔内佐斗司流 ほとけの世界とその造形』

日時：平成27年11月22日(日) 14時30分開演
　　(講演時間は90分を予定しています)
会場：応現院(立川市泉町935-27)
主催：応現院文化講演会実行委員会
後援：立川市商工会議所・立川観光協会・
　　立川バス株式会社・エフエムたちかわ
協力：(有) えくてびあん
協賛：真如苑

【 お申し込み方法 】
聴講には事前のお申し込みが必要です。中学生以上の方でご希望の方は下記要項に従って往復ハガキ、またはインターネットでお申し込みください。 尚、お申し込み多数の場合は抽選となります。(定員700名様)
①往復ハガキ：住所、氏名、年齢、電話番号、希望人数 (本人含めて2名様まで) を明記し、申込先に郵送。
申込先：〒190-0023　立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
応現院文化講演会実行委員会
②インターネット：PC、スマートフォンなどにて下記アドレスにアクセス後、応募フォームに従って申し込む。
http://www.bunkakoenkai.jp/

【 申込期間 】
往復ハガキの場合は、平成27年9月26日(土)～
平成27年10月26日(月) 必着
インターネットの場合は、平成27年9月26日 (土)
午前10時～平成27年10月26日(月) 午後5時まで

【 お問い合わせ 】
応現院文化講演会実行委員会
TEL 042-523-9898

撮影：遠藤桂

講演者プロフィール
籔内佐斗司 (やぶうち さとし)
彫刻家、東京藝術大学大学院教授 (文化財保存学専攻)
1953年大阪生まれ。東京藝術大学および大学院で彫刻を学んだ後、6年間にわたり仏像の古典研究と仏像修理に携わる。その後、古典技法を駆使した木彫とブロンズ彫刻で、日本人の精神世界や仏教的世界観を「童子」というキャラクターを用いて制作。2004年に、現職に就任。 2010年に奈良で開催された「平城遷都1300年祭公式キャラクター・せんとくん」制作を機に、仮面舞踏団「平成伎楽団」のプロデュースを開始。
2011年から2014年にかけてNHK教育の仏像番組を担当、わかりやすい仏像解説が好評を得る。
著書：新書「ほとけの履歴書」(NHK出版2010)、作品集「籔内佐斗司　やまとぢから」(青幻舎 2013)、文庫「仏像礼讃」(大和書房 2015)、「ほとけさまの図鑑」(小学館 2015)、選書「壊れた仏像の声を聴く」(角川選書 2015) など
http://uwamuki.com
http://www.tokyogeidai-hozon.com

立飛のヤギにあかちゃん、生まれました

21頭だったヤギが22頭になりました。8月のはじめに生まれた赤ちゃんヤギ。真っ白でふわふわしています。大人のヤギの間を走ったり、真似をして寝転んだり。お母さんヤギの後ろにいたかと思えば前になったり。どんな仕草も全部かわいい。街行く人が笑顔になります。

立飛みどり地区にて

東京都・立川市合同総合防災訓練
(第36回九都県市合同防災訓練　東京都会場)

平成27年9月1日 (火) あいにくの雨になりましたが、東京都・立川市合同総合防災訓練が行われました。当日は午前8時ごろ、多摩地域を震源とする非常に強い地震が発生し、多摩部の広い範囲で震度6弱以上、特に立川市では震度6強を記録したという想定で、緊急地震速報のサイレンから始まりました。緊急停止したモノレールからの乗客救出訓練が高松町の引き込み線で、また国営昭和記念公園 立川口駐車場東側芝生広場では、住民共助による訓練が行われ、多くの市民が参加していました。一方ゆめひろば会場では、安倍首相をはじめ多くの来賓を迎えて総合的な救助訓練が行われ、ここにも多くの市民が参加、防災意識を高めていました。自助、共助、公助、そしてその連携。訓練のテーマをしっかり実践し、防災ブックを備え、災害に強い街づくりへ、清水市長のインタビューも交えて、えくてびあんでは次号で詳しくお届けします。

空自、陸自の車両部隊　救助活動

立川市消防団の消火活動

主催者の舛添東京都知事と清水立川市長

おじゃましま～す！ ――[40]

おいしいお食事、いかがです？

レストラン いなつき

以前にもこのコーナーでご紹介した「いなつき」さん。高松町から、曙町シネマ通りにお引越し。辛口のノーマルカレーは健在です。いえ、むしろ超お得なランチになって登場です。ライス大盛り無料でワンコイン！ いなつきさんのカレーと言えば、ちょっと辛い。溶けて形がなくなるほどじっくり煮込んだ野菜の甘み、追いかけてくる辛さが白いご飯によく合います。シンプルな料理ほどむずかしいだろうなと思いますが、そこは腕のいいシェフ。本当にいいお味です。一方、ランチのセットメニューは週替わり。お肉料理、お魚料理、ベーグルサンドに今週のいなつきカレーの4種から選べます。どれもおいしいのですが、えくてびあん一押しはベーグルサンド。中味は週替わりで、写真は生ハムサンドです。店長が毎日焼くベーグルはちょっと有名。ベーグルというと「硬い」とか「パサつく」イメージですが、店長のベーグルは違います。プレッツェルのような香ばしさとモチモチ感はそのままに、でもパンのような柔らかさと小麦粉の風味が中味のおいしさを引き出している…。すっごくおいしい！ パンよりずっとヘルシーなベーグル。こうしているうちにまた食べたくなっちゃいました。

ワンコインのノーマルカレー。シンプルなごちそうです。

〒190-0012
立川市曙町2-30-9 シネマスタジオ
TEL 042-528-1470
営業時間　11：30～14：30
　　17：30～22：00
定休日　第1、第3、第5月曜日

ベーグルサンド、スープ付で税込 900 円。
ベーグルは紙にくるんでくれます。
お皿に盛るとこんなイメージです。

表紙の人

小山利二さん、裕史さん、拓海さん

「美容と健康をテーマに」が合言葉。カロリーや塩分を控えるだけでなく、麺にも工夫、コラーゲンやミネラルが摂れるすぐれもの。スープを一匙口に運べば、丁寧に調理されていることがわかります。鶏ガラ100％、ラードは使っていません。多彩なメニューで選ぶのに困ってしまいますが、どれを選んでもとってもおいしい！ 活気あふれる店内にこの方の存在は欠かせません。もちろんマネージャーの裕史さん。お客様と軽快に話し笑う声が聞こえないと寂しいくらいです。社長の利二さんがお会計で「2千万円お預かりしましたので、2百万円のお返しです」とおっしゃるのは、もう有名。「明るい、元気」がサンフジさん。この日の撮影も雷雨到来の直前でしたが、一発で決まったこの笑顔！ さすがです。勉強で忙しいのに、拓海さん、来てくれてありがとう！

かたこと

◆夏の終わりはどこか寂しい感じがするものですが、立川では昭和記念公園のコスモスがきれいに咲く季節。毎年、夏以上に立川を訪れる人が増える時期です。シルバーウィークや10月の連休。遊ぶ計画、集客する計画、皆さま準備は万端でしょうか。 秋の5連休をシルバーウィークと呼ぶのだそうですが、毎年あるものではありません。次にやってくるのは2026年だそうですよ◆「立川といえば何ですか?」とよく聞かれます。挙げたいものはいろいろありますが、立川だけにあって全国に通用する特徴的なものと言われたら、やはり「昭和天皇記念館」「国立の研究機関」そして「赤とんぼ」ではないでしょうか。四戸さんによる赤とんぼの再現も待ち遠しいのですが、赤とんぼを制作していた立飛HD(旧・立川飛行機株式会社)に、最近「飛行機クラブ」という部活動が発足しました。モノづくりの会社にモノづくりの歴史が復活するのも嬉しいです◆立川は北ばかりではありません。南口も元気です。ご存知ですか?「得する街のゼミナール」通称「街ゼミ」。お店の人が教えてくれる専門知識やコツ。無料で教えてもらえる街の中のゼミナール。今回は9月24日～10月31日です◆ヤギのいる「みどり地区」が東京の珍スポットに選ばれたのだとか。秋深まる頃にはヤギも故郷へ帰るのだそうです。その頃には箱根駅伝予選会ということになるのでしょうか。えくてびあんはこれからも常に立川とともに歩みます。　　えくてびあんスタッフ一同

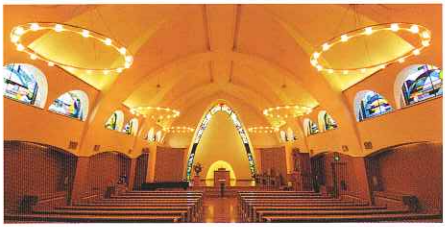
えくてびあん ©
10月号　第34巻　通巻371号

平成27年10月1日発行
発行　有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082　FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL http://www.tamatebakonet.jp
発行人　黒須 環
企画・写真・編集　えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷　三浦印刷株式会社

無断転載を禁じます。

なかなか聴けないコンサートです

パンフルートメンバー



立川キリスト教会の礼拝堂

高松町にある立川キリスト教会で、パンフルートのコンサートがあります。それもただのコンサートではありません。パンフルート界の第一人者 CORNEL PANA 氏が来日しての演奏です。パンフルートは世界最古の管楽器と言われるパイプオルガンの先祖です。その音色は、ルーマニアの牧羊民の中で受け継がれてきました。その昔、シルクロードを通じて中国へ伝わり様々な変化を遂げて簫となります。が、日本には実は正倉院に断片のみ残る「幻の古楽器」のひとつに「排簫（はいしょう）」と呼ばれるものがあり、これを西洋ではパンフルートと呼んだようです。1970年代から日本の国立劇場によって古代楽器の復元が始まり、この排簫も復元され国内外で演奏会が開かれました。

少なからず日本との関わりがあるパンフルート。長い間人々の心を癒し続けてきた音色を立川の地で聴ける――こんなチャンスは滅多にありません。何はともあれ、会場に足をお運びいただき、すばらしい演奏で秋のすてきな夜をお楽しみください。

日時：2015年10月3日（土）午後6時半開場　午後7時開演
場所：立川キリスト教会 礼拝堂（高松町 3-21-8）
お問い合わせ：TEL 042-526-6826
入場は無料です。駐車場はありません。

【 演奏者プロフィール 】

CORNEL PANA（パンフルート）

1954年ルーマニア生まれ。5歳からパンフルートを始める。1978年 ブカレスト音楽院主催のコンクールで優勝。高名なザンフィル氏らに師事。その後独自の演奏技術の向上を目指し、自身が開発したシルバーパンフルートを駆使した超絶技巧演奏で、パンフルート界のカリスマ奏者として知られる。同郷の指揮者であるチュカ氏と共にヨーロッパ、北米を中心に演奏活動を行う。2007 年に初来日、今回で 4 回目の来日となる。現在、スイスの音楽大学でフルート科の教授を務める。

CHRISTIAN CIUCA（指揮者／バイオリニスト）

1966 年ルーマニア生まれ。6歳からバイオリンを始める。ソルボンヌ大学の音楽科を卒業後、メヌヘン、ジョダン、マーゼル氏らに師事、指揮学を学ぶ。1998 年 Ensemble instrumental De Paris を 設立し、常任指揮者となる。パリにおいてオーケストラ、合唱団を中心とした音楽活動に加え、フランス国立管弦楽団、パリ室内管弦 楽団のバイオリニストとしても複数回来日。パナ、谷口と共にパンフルートトリオを結成。バイオリン奏者としても、ヨーロッパ、北米を中心に精力的な音楽活動を展開している。

谷口玲理（ピアニスト）

新潟県出身。国立音楽大学大学院ピアノ科卒。同大学で小島満理、柳川守氏に師事。2歳からピアノを始め、1992年新潟音楽コンクールで大賞受賞。それを機に新潟室内合奏団との協演を果たす。1998年渡仏、音楽院で演奏技術を学び、2006年活動拠点をフランスに移し、ヨーロッパ各地でソロ活動を行う。チュカ氏にその才能を高く買われ、オーケストラ、トリオのピアニストとしても活動中。今回はパンフルートメンバーとして 2 回目の来日。